

全国学校・園庭

# ビオトープコンクール 2023 報告書



公益財団法人

日本生態系協会

## はじめに

公益財団法人日本生態系協会  
会長 池谷奉文



日本の自然は、大きく減っている現状が見られます。野鳥を例にすると、冬は北の国からマヒワなどたくさんの鳥たちが日本で越冬しますが、40～50年前に比べて、現在は1/100以下ほどになっていることに気がきます。以前は、春にオオルリ、キビタキ、サンコウチョウなど40種類ほどの野鳥が同時に鳴くコーラスが聞こえたものですが、残念ながら、現在は聞くことが難しくなりました。生態系の頂点である野鳥が各地で減っているということは、当然、各地の自然が減少しているということになります。

日本は、2050年までに自然の損失を<sup>とど</sup>め自然を取り戻していくことを、世界に約束しました。そのためには、公共の場所だけではなく、民間も努力する必要があります。企業の土地、そして一番小さい単位である私たちの家庭の庭も対象となります。

そうした中で、学校・園庭ビオトープは、自然との共生に向けて行動できる人材を育みたいへん重要な教育的な場となります。地域の自然について理解を深め、合意形成の大切さを学習する機会になります。

13回目(26年度目)となる本コンクールにおいても、園児、児童生徒、学生が地域の自然の生き物のために試行錯誤しながら、自然環境を取り戻す素晴らしい取り組みと出会うことができました。持続可能な社会の実現に向けて、図書室と同じように、全国の学校や園に学校・園庭ビオトープが設置されるよう、私たちの会では、これからも各地で頑張っている実践に脚光を当てるなど、学校・園庭ビオトープを支援していきたいと思っています。

## もくじ

### ページ 内容

#### 02 はじめに

#### 03 学校・園庭ビオトープとは？

#### 学校・園庭ビオトープの取り組みのポイントは？

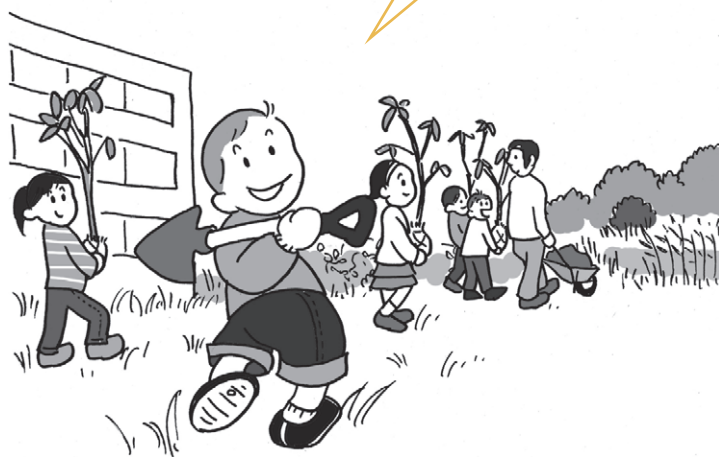
#### 04 上位5賞の事例

文部科学大臣賞 福島大学附属中学校(福島県)  
環境大臣賞 登美丘西こども園(大阪府)  
国土交通大臣賞 千葉市立稲毛第二小学校(千葉県)  
ドイツ大使館賞 東京ゆりかご幼稚園(東京都)  
日本生態系協会会長賞 大阪市立瓜破西小学校(大阪府)

#### 09 学校・園庭ビオトープ優秀賞・学校・園庭ビオトープ賞

#### 10 全国学校・園庭ビオトープコンクール2023 概要

#### 秋篠宮皇嗣殿下のおことば

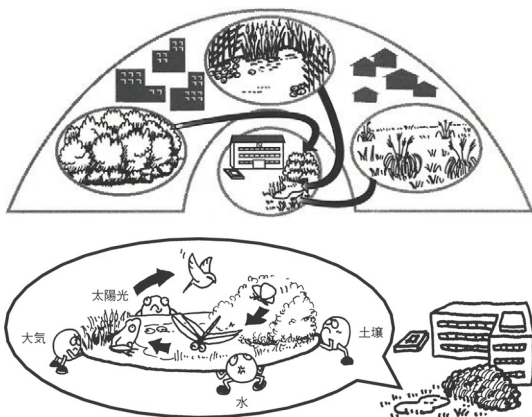


## 学校・園庭ビオトープとは？

BIOTOP<sup>ビオトープ</sup>とは、「自然の生き物がくらす空間」という意味で、すなわち、草地や水辺、樹林など自然のことです。

学校・園庭ビオトープは、教育や保育のために、学校・園の敷地や近隣に設ける「地域の自然」です。

ここでは、地域の自然と同様に、誘致や導入した自然の生き物に餌をあげなくとも生きていくことができるよう、環境を整えていくことが大切です。



学校・園庭ビオトープは、子どもたちや生き物に、以下の「場」を提供します。

- 豊かな感性や表現、思考力などを育む場
- 地域の自然・生き物への関心を育む場
- 自然と共生する地域づくりにむけたシチズンシップ教育※の場
- 学校・園と地域の多様な主体をつなぐ場
- 自然の生き物の生息地、移動する際の継地としての場

※ シチズンシップ教育

市民一人ひとりが社会参加をしていくために必要な能力を身に付けるための教育

## 学校・園庭ビオトープの取り組みのポイントは？

学校・園庭ビオトープの価値を高めるために、以下に留意することが大切です。

- 地域の自然(見た目や導入する植物等)を真似る・取り込む
- 園児や児童生徒・学生が、主体的に関わる
- 様々な教科や領域で計画的に活用を図る
- 地域の多様な主体(他校・園も)との連携協働の体制を築く
- 校(園)内外において持続的な管理活用の体制を築く
- 地域の自然や、自然と共生したまちづくりに視野を広げる





# 上位5賞の事例



## 文部科学大臣賞 福島大学附属中学校（福島県）



文部科学大臣賞は、特に体験活動や学習活動の内容・成果で秀でているとして、福島大学附属中学校が受賞しました。

同校では、ビオトープ設置の提案、校内コンテストを通じたデザイン決め、維持管理の体制、授業での活用のあるり方など、全てにおいて学年横断的に生徒が主導し、時間をかけながらビオトープをつくり育てています。



### 校内ビオトープ案コンテストの実施

8



### ふくしまビオトープサミットの開催

21



大臣賞、会長賞などの「上位5賞」は、実践モデルとなる優れた取り組みとして表彰されるものです。

特に際立って秀でていると評された特徴をもとに、各賞が決定されました。

### つくりたいビオトープを校内コンテストで募集

学校ビオトープづくりのきっかけは、授業中に生徒から校内にビオトープつくろうと提案があったことでした。提案した生徒曰く、「学校ビオトープが、各学年の理科や様々な教科の教材になり得ると思った」とのことでした。

また、この提案のときに、学校ビオトープは各学年が活用することになるので、全生徒から案を募ろうとのアイデアがあり、職員会議でのプレゼン・承認を経て、生徒誰もが応募できる「ビオトープ案校内コンテスト」が行われました。

結果として、100人を超える生徒有志から案が寄せられ、理科系の生徒による一次審査、その後全生徒の投票により、最優秀賞等が決まりました。ビオトープづくりは、最優秀賞の内容を踏まえて、休み時間を利用して、1~3学年まで生徒有志の手によって行われました。

### 「ビオトープ管理委員会」の設置の提案

学校ビオトープづくりが本格化するなか、ビオトープづくりに関わる生徒たちは、学校ビオトープをより良くするために組織立った動きが必要と考え、「ビオトープ管理委員会」という有志の組織を設けることを生徒会に提案し、承認されました。

また、生徒たちは、ビオトープづくりには専門家の協力のもと管理と評価を行っていくことが大切であることを知り、福島大学の生物の研究者との連携を考え、教員を介して打診し、連携体制を構築しました。

### 近隣の学校を巻き込む「ビオトープサミット」

その後、福島県内の小中学生を対象に、「ふくしまビオトープ子どもサミット」をオンラインにて開催しています。このサミットの目的は、ビオトープをきっかけに生物多様性保全の取り組みが広がっていくことでした。

サミットを通じて、他校でも中庭にビオトープ空間をつくる「ビオトープ・プロジェクト」が立ち上がりました。福島大学附属中学校といえばビオトープと思ってもらえるよう、県内に、そして全国にさらに発信し、普及させていく予定です。





## 環境大臣賞

### 社会福祉法人堺ひかり会 登美丘西こども園（大阪府）



QRコード  
YouTube  
各校・園の発表

\* 上位5賞は発達段階を問いません。また、上位5賞の位置付けに優劣はありません。

環境大臣賞は、特に野生の生き物のすむ「ビオトープ」の質で秀でているとして、登美丘西こども園が受賞しました。

同園では、園児にはグラウンドよりビオトープが必要と、地域の小さな里山づくりをコンセプトに、園庭でのビオトープづくりを開始しました。保護者や地域住民を積極的に巻き込み、園児の環境教育の場づくりを展開しています。



## グラウンドよりビオトープを

園庭は、最低基準の面積をクリアする程度の広さです。数本の木が植えられたグラウンドの園庭を、更なる環境教育の実践研究を進めていくうえで充実を目指し、2016年より園庭の半分ほどをビオトープにしました。

計画時、池は危ないのではないかと、小山であれ園庭に段差を付けるのは危険ではないかななどの意見もありました。ただ、それ以前の環境教育の実践で保護者の理解もあり、大きな反対もなく計画は動き出しました。

園庭ビオトープができたことで、面積が小さくても、毎日園庭に出れば動植物に出会うことができ、雨の日でも観察ができます。日常的に、継続的に体験ができる環境とは、この状況のことだったのだと実感しました。

## 地域の小さな里山を目指して

造成時には、ビオトープの専門家の協力を得て、園児や保育者、そして、延べ200人以上の保護者や地域の方の協力のもと、作業を行いました。

園庭ビオトープに地域在来のもを導入するために、園児が散歩に出かけ草や種を採ってきて、まいたり植えたり、近くの山から実生をもらって植えたりすることから始まりました。

設置当初は殺風景な環境でしたが、5月になるとたくさんの草が生え出し、バッタやイトトンボなど様々な生き物が訪れ始めました。

## 職員全員の情報共有の場「グリーンラボ」

環境教育を継続的に進めるにあたり、園の教育・保育課程に環境教育の欄を特別追加し、年間計画を立てています。

また、保育者全員が月に一度、研究会「グリーンラボ」に集まり、事例検討をしたり、情報の共有をしたりして、実践に活かしています。

「グリーンラボ」では、全職員が推進係、ビオトープ係、菜園係、エコマネ係等の8つの係のどれかに所属して活動し、環境教育の推進、維持管理に務め、推進係が毎月色々なテーマを企画し、保育者が環境教育を楽しんで取り組めるように進めています。

## 園庭ビオトープの造成

2016年2月 造成開始



池を掘ります



沢山の方々のご協力



水が入りました



野草の植え付け



植樹中

## 環境教育の推進活動

グリーンラボの係活動

### 8つの係

- 推進係
- ビオトープ係
- 菜園係
- エコマネ係
- 稲作係
- 玄関ホール係
- 絵本係
- カリマネ係





## 国土交通大臣賞 千葉市立 稲毛第二小学校（千葉県）



国土交通大臣賞は、特に人と自然が共存するまちづくりにつながる点で秀でているとして、稲毛第二小学校が受賞しました。同校は、海岸地区の埋め立てでできた住宅地の中にありながら、20年以上かけて、地域の自然を創出してきました。今や、ホタルやアカガエル、モクズガニなどが自生し、生物多様性に富み、自然と触れ合う地域の拠点にもなっています。



春

### ビオトープの会



### 埋立地に地域の自然をつくり23年

学校は、埋立地に作られた住宅の中に位置し、元々自然がありませんでした。そうした中、23年前に、池・小川・草地・樹林・湿地等からなる、学校ビオトープ「いのちの森」がつくられました。土や樹木は、同じ流域の近くの里山から運び込まれました。

千葉県の里山の創出を目指して、PTAいのちの森保全委員会や学校ビオトープの支援団体「グループ2000」との継続的な連携による自然再生活動を行った結果、以前に放したニホンアカガエルやヘイケホタルが自生するまでに至りました。

最近では、学校近くにある水路を経由して、海からモクズガニが訪れるようになりました。

### 2年に一度の学習会「ビオトープの会」

児童は、1年生の生活科、3年生の理科、5年生の社会科の時間に、「グループ2000」の横田氏を講師に「ビオトープの会」という学習会を行っています。この学習では、1学級ずつ、学校ビオトープの意義や歴史、生息する生き物、維持管理のあり方などについて話を聞き、生き物を探すなどの体験をします。

児童の発達段階ごとに、学校ビオトープについて考える機会を設けることで、多面的に物事を捉えられるようになるとともに、学校ビオトープについての理解を深め、「自分たちの学校ビオトープ」という意識の醸成につながっています。

### 地域の自然の拠点となる学校ビオトープ

地域には、他に小学校と中学校が1校ずつあります。この小学校にも既に学校ビオトープがあり、学校間をつなぐ遊歩道の緑地を利用して生き物が行き来している様子が伺えます。

学校ビオトープで育まれた命が、遊歩道の緑地を経由し他の自然空間へ。学校ビオトープが自然の連続性を生み出しています。





## ドイツ大使館賞

### 学校法人東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園（東京都）



ドイツ大使館賞は、特にユニークな学習・体験活動を行っているとして、東京ゆりかご幼稚園が受賞しました。

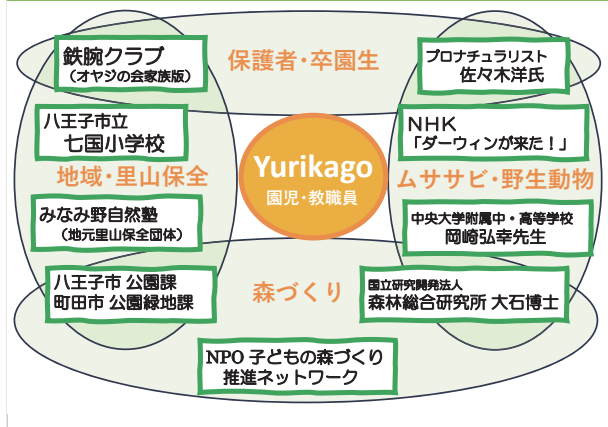
同園は、特別緑地保全地区の隣接地に園を設置し、園庭にビオトープを創出しました。隣接する林からムササビが訪れたことをきっかけに、ムササビを題材に「環境」や「表現」などの領域での学習活動を積極的に展開しています。



#### ムササビの劇を作り 生活発表会で発表



#### 多様な連携とサポート



#### 園庭でのムササビとの出会い

当園は、10年前に移転し、現在、八王子ニュータウンと特別緑地保全地区に囲まれた自然豊かな場所にあります。園庭全体を総合的ビオトープとして捉え、具体的には、田んぼ、池、小川、草はら、森の5つのビオトープで構成されるよう、整備・維持管理が行われています。

ある日、木の上を見て「リスがいる！」と叫ぶ園児がいました。担任と一緒に見守ると、木から木へと飛ぶ姿がありました。「リスに似ていて飛ぶ生き物はなんだろう？ひょっとしてムササビかもしれない」ということで、夜間に園庭に TENT を張り、親子で観察会を行いました。すると、木から木へと滑空するムササビを確認することができました。

#### ムササビを題材に広がる園児の活動

専門家の助言で巣箱の設置、保護者の協力でムササビ観察用にツリーハウスの設置等をしたことにより、園児のムササビへの愛着も増していきます。ムササビに会えた喜びを表現したくなり、園児が作詞、担任が作曲し、「ムササビの歌」を作って保育参観で発表しました。

生態に詳しくなると、園児から「劇を作りたい！」という声が上がりました。自分たちで台詞や振り付けを考え、大道具も作り、年間保育の集大成である「生活発表会」で発表しました。発表では、「天敵のテンやフクロウも一生懸命生きてるから、悪者にするのはかわいそう」と様々な生き物の立場に思いを寄せ、考えることができるようになりました。

ムササビがすみやすい環境づくりのため、また持続可能な里山林を維持するため、毎年、園庭の各所に「どんぐり畑」を作ってドングリを育てています。

#### 多様な連携とサポート

こうした一連の活動は、様々な関係主体との連携、サポートによって成り立っています。

地域の多様な主体との連携を深めながら、園児の「主体的・対話的で深い学び」につながる豊かな自然体験を大切にしています。

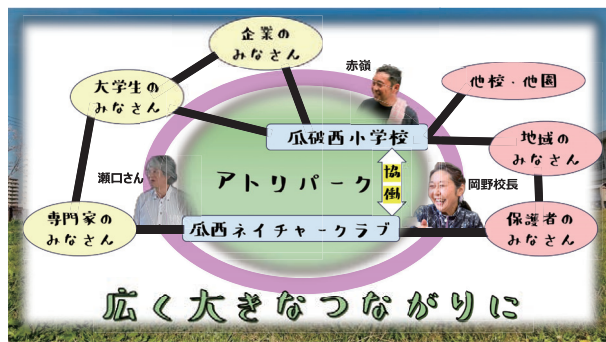


## 日本生態系協会会長賞 大阪市立 瓜破西小学校（大阪府）



日本生態系協会会長賞は、特に地域とのパートナーシップの観点で秀でているとして、瓜破西小学校が受賞しました。

校内に草地を中心とした自然体験エリアを設け、教職員・保護者・地域住民からなる「瓜西ネイチャークラブサポートネット」と協働しながら、維持管理を進めています。また、カリキュラムの中で、企業や大学と積極的に連携しながら、多様な教育実践を展開しています。



### 4つのつながりを生み出すアトリパーク

アトリパークは、校内1,800㎡の敷地に池や小川、草地、湿地などが設けられた、里山環境を目指しているビオトープです。学校で飼育されているヤギの名「アトリ」にちなんで、「アトリパーク」と名付けられ、親しまれています。

アトリパークでは、4つのつながりを生み出しています。1つ目は自然とつながること。アトリパークでの学習を通して自然を大切にしようとする態度を育みます。

2つ目は人とつながること。地域や保護者の方、多様な分野の専門家の方とのつながりは、子どもたちにとって価値のある出会いとなります。

3つ目は学びをつなげること。アトリパークでの活動で生まれる疑問や課題は、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、主体的で探究的な学びの連続を生み出します。

4つ目は心をつなげること。アトリパークで展開される多様な活動は、子どもたちに活躍の場を与えてくれます。

### 広がる地域との連携

アトリパークには、地域の様々な方が訪れます。学校ビオトープの維持管理をお手伝いする地域や保護者の皆さん、コンポストの管理支援や出前授業などをする大学生、アトリの家を建てる木工の専門家の皆さんなどなど。

これらのつながりは、自然体験活動や維持管理を支援する、教職員、保護者、地域住民からなる「瓜西ネイチャークラブサポートネット」との協働でもたらされます。

瓜破西小学校と瓜西ネイチャークラブは、アトリパークを活動拠点として、互いに協働しながら多様なつながりを作っています。また、それらをつなげるには、パイプ役を担う人材が必要です。

例えば、地域や保護者、他校・他園とのつながりを学校長が、また、大学生や企業、専門家の皆さんとのつながりを長年連携している環境教育団体bioaが、そして全体の調整と学校・ネイチャークラブのつながりを担当教員が担い、この3人がつながることで、広く大きなつながりになっていきました。





## 学校・園庭ビオトープ優秀賞

上位5賞に次ぐ特に優れた取り組み 15校・園

### ★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(学)山の手学園 平和幼稚園(北海道)  
 (福)花畑福祉会 つくばこどもの森保育園(茨城県)  
 愛知教育大学附属幼稚園(愛知県)  
 富田林市立富田林幼稚園(大阪府)

富田林市立錦郡幼稚園(大阪府)  
 富田林市立青葉丘幼稚園(大阪府)  
 (学)吉井学園認定こども園錦ヶ丘(鹿児島県)

### ★ 小学校・中学校・高校

栃木県立 那須拓陽高等学校(栃木県)  
 所沢市立清進小学校(埼玉県)  
 板橋区立蓮根第二小学校(東京都)  
 豊田市立上鷹見小学校(愛知県)

豊田市立西広瀬小学校(愛知県)  
 甲賀市立油日小学校(滋賀県)  
 廿日市市立宮園小学校(広島県)

### ★ 大学

(学)青森田中学園 青森中央短期大学(青森県)



## 学校・園庭ビオトープ賞

学校・園庭ビオトープを積極的に維持管理・活用する取り組み 54校・園

### ★ 幼稚園・保育所・認定こども園

(学)創価学園 札幌創価幼稚園(北海道)  
 (学)北広島竜谷学園 広島幼稚園(北海道)  
 (福)しらかば福祉会 しらかば保育園(青森県)  
 (福)ひなどり保育園 浦和ひなどり保育園(埼玉県)  
 (福)藤寿会 しののめキッズパーク保育園(埼玉県)  
 (学)吉岡学園 まどか幼稚園(千葉県)  
 (福)砂原母の会 幼保連携型認定こども園そあ(東京都)  
 (福)志正会 大久野保育園(東京都)  
 新潟市立沼垂幼稚園(新潟県)  
 (福)浄英会 長生保育園(新潟県)  
 (学)鶴来学園 鶴来第一幼稚園(石川県)

(学)鶴来学園 鶴来第二幼稚園(石川県)  
 (福)浄華福祉会 木の花保育園(岐阜県)  
 名古屋市立おりべ幼稚園(愛知県)  
 (学)雪見ヶ丘学園 井上幼稚園(愛知県)  
 大阪市立瓜破北幼稚園(大阪府)  
 富田林市立喜志幼稚園(大阪府)  
 西宮市立瓦木北保育所(兵庫県)  
 西宮市立甲東北保育所(兵庫県)  
 (福)松原保育園(山口県)  
 総合施設 おおくらの森(熊本県)  
 (学)押野学園 認定こども園 せんだい幼稚園(鹿児島県)

### ★ 小学校・中学校・高校

西郷村立米小学校(福島県)  
 川口市立小谷場中学校(埼玉県)  
 上尾市立大石北小学校(埼玉県)  
 越谷市立大袋東小学校(埼玉県)  
 朝霞市立朝霞第五小学校(埼玉県)  
 千葉市立越智小学校(千葉県)  
 千葉県立船橋夏見特別支援学校 中学部・高等部(千葉県)  
 成城中学校・成城高等学校(東京都)  
 杉並区立永福小学校(東京都)  
 板橋区立板橋第二小学校(東京都)  
 板橋区立緑小学校(東京都)  
 東京都立農産高等学校(東京都)  
 江戸川区立小松川小学校(東京都)  
 町田市立小中一貫ゆくのき学園(東京都)  
 小平市立小平第六小学校(東京都)

(学)桐朋学園 桐朋学園小学校(東京都)  
 福井市足羽中学校(福井県)  
 湖西市立知波田小学校(静岡県)  
 名古屋市立豊田小学校(愛知県)  
 真宗大谷学園 大谷中学校・高等学校(京都府)  
 大阪市立大宮小学校(大阪府)  
 大阪市立南田辺小学校(大阪府)  
 吹田市立佐竹台小学校(大阪府)  
 八尾市立曙川小学校(大阪府)  
 八尾市立高安小中学f校(大阪府)  
 (学)雲雀丘学園 雲雀丘学園小学校(兵庫県)  
 兵庫県立篠山東雲高等学校(兵庫県)  
 広島県立祇園北高等学校(広島県)  
 近畿大学附属広島高等学校・中学校福山校(広島県)  
 古賀市立舞の里小学校(福岡県)

### ★ 大学

明星大学(東京都)

相愛大学 人間発達学部 子ども発達学科(大阪府)

2023年(令和5年)

1月～ 応募にあたっての解説動画を公開

6/16(金) 応募締切

7～10月 補足調査(書類、現地訪問、リモート)

11/24(金) 中央審査委員会

2024年(令和6年)

2/4(日) 発表大会



## 全国学校・園庭ビオトープコンクール2023

期間 2023年度(令和5年度)

対象 学校・園庭ビオトープに取り組む小・中・高校、大学、幼稚園、保育所、認定こども園など

主催 (公財)日本生態系協会

後援 文部科学省、環境省、国土交通省、農林水産省、子ども家庭庁、ドイツ連邦共和国大使館、全国国公立幼稚園・こども園長会、全日本私立幼稚園連合会、(福)全国社会福祉協議会全国保育協議会、(福)日本保育協会、(公社)全国私立保育連盟、NPO法人全国認定こども園協会、全国小学校理科研究協議会、全国小中学校環境教育研究会、(一社)日本保育学会、(公社)こども環境学会、(一社)日本環境教育学会、(公社)日本ナショナル・トラスト協会、日本ビオトープ管理士会

協賛 (株)アボック社、大和リース(株)、(有)ゼンボ、(一財)土屋環境教育振興財団

全国学校・園庭ビオトープコンクールは1999年から隔年で開催しており、今回で13回目(26年度目)となりました。

今回も全国から多くの実践校・園が集いました。それらの学校・園の中には、ここ1～2年で設置された取り組みも多く見られます。

審査にあたってはまず、学識経験者やビオトープ管理士などの専門家による現地訪問、リモートによるヒアリング、補足資料の提供などにより補足調査が行われました。この結果を踏まえ、中央審査委員会にて厳正な審査のうえ、上位5賞ほか各賞が決定しました。

2月に開催した発表大会では、秋篠宮皇嗣殿下と悠仁親王殿下のご臨席のもと、表彰式、上位5賞の受賞校・園の事例発表、受賞校・園との交流が行われました。当日は約400名が来場し、交流を深めています。

## 寄付のご報告

本コンクール開催にあたり、頑張っている実践に脚光を当てるという趣旨にご賛同いただいた114名の皆様(含 企業・団体)から、総額約2,000,000円のご寄付をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

なお、日本生態系協会では、本コンクールを含め、学校・園庭ビオトープを普及させていくための寄付を、個人・企業・団体の皆様から引き続き募っています。協会webの寄付フォーム(カード可)、またはゆうちょ銀行の口座で承ります。ご支援のほど、よろしくお願いします。

### ■ゆうちょ銀行 寄付口座

口座番号 00170-2-266499

口座名義 公益財団法人日本生態系協会

\* 通信欄に「ビオトープ寄付」と明記してください。

\* 窓口でお振り込みの場合、振込手数料が免除されます。

寄付フォーム





## 発表大会

日時 2024年(令和6年)2月4日(日) 13:00 ~ 16:00

会場 東京国立博物館 平成館 大講堂

- ・開会のあいさつ (公財)日本生態系協会会長 池谷奉文
- ・秋篠宮皇嗣殿下のおことば
- ・来賓のごあいさつ 文部科学大臣政務官 安江伸夫 氏  
環境大臣政務官 朝日健太郎 氏  
国土交通大臣政務官 こやり隆史 氏  
ドイツ連邦共和国大使館  
首席公使 マルティン・フート 氏
- ・上位5賞の表彰式
- ・上位5賞受賞校・園の取り組み発表
- ・講評 元都留文科大学教授 高田 研 先生
- ・受賞校・園との交流



### 秋篠宮皇嗣殿下のおことば

はじめに、今年の元日、石川県の能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生いたしました。この地震によって、石川県を中心に甚大な被害が生じました。本日ここに集われている皆様も心を痛めておられることと思います。

この地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。そして、被災されている数多くの方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災した地域の復旧・復興を願っております。

本日、隔年で開催されている「全国学校・園庭ビオトープコンクール2023」の発表大会に、皆様とともに出席できましたことを大変嬉しく思います。そして、このたび各賞を受賞される方々に心よりお祝いを申し上げます。

さて、2022年の「国際連合生物多様性条約第15回締約国会議」において、2050年に自然と共存する世界を実現するため、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復に転じさせる、“Nature Positive”の方向性が示されました。これに向けた取り組みとして、2030年までに陸域と海域それぞれの30%を保護・保全する“30 by 30”を主要な目標の一つとして掲げました。

2019年の国連報告書によれば、今後数十年で、およそ100万種の生物が絶滅するおそれがあると言われて

います。持続可能な開発目標、いわゆるSDGsには、目指すべき世界像として、「人類が自然と調和し、野生動植物その他の種が保護される世界」が記されています。そのことを達成するためには、私たち一人ひとりが自然からの恩恵を理解するとともに、自分たちの身近にある自然をよく観察し、関心を深めていくことが大切です。

その意味において、学校や園庭に作るビオトープは、そこに通う人たちにとって、自然と触れ合う場にとどまらず、自然との共存について考える大切な機会を提供してくれる場になると思います。このたびのコンクールにおける受賞事例では、普段生活する空間で様々な人々が協力し合い、自然との共存を試行する興味深い取り組みが行われていると伺っております。

そして、このような意義深い取り組みが広く紹介されることは、持続可能な社会の実現に向けた人づくり・地域づくりにも大きく貢献するものと考えます。

本コンクールも今回で13回目を迎え、学校や園にビオトープがあることの大切さが広く認識されるようになってきたことと思います。このことは、本活動に携わってこられた多くの方々のご尽力によるものであり、ここに深く敬意を表します。

おわりに、学校・園庭ビオトープの取り組みが、今後も日本の各地で普及し、自然を慈しむ心の輪が広がっていくことを祈念し、私の挨拶といたします。



## GREEN INNOVATION 緑が、街を変えていく

- ・緑の都市空間づくり
- ・緑で再生・創生
- ・緑による猛暑対策



## 豊かな自然を次の世代へ 引き継いでいく

- ・生物生息空間の創出
- ・在来種緑化
- ・環境教育



## 地域活性化のカギとなる にぎわい創出

- ・公園再生による都市再生
- ・コミュニティ交流の場
- ・SEGES「緑の認定」



## 安心安全な まちづくりのサポート

- ・雨水貯留浸透
- ・気候変動による自然災害への備え



## 自然と共生し、健やかな未来へ グリーンインフラで築くウェルビーイングな地域社会



花博記念公園鶴見緑地（大阪府）



フレスポ御所野 ハチロウトープ（秋田県）



ブランチ神戸学園都市 チガヤ群落再生（兵庫県）

自然を有する多様な機能や特性をインフラ整備や土地利用に活用し、地域や環境のさまざまな課題の解決をはかるグリーンインフラ。大和リースは、建築や商業施設開発、リースや環境緑化など、多彩な事業を通じて培ったノウハウを複合し、公民連携やさまざまなパートナーとの協働を通じて、グリーンインフラによる持続可能なまちの未来の実現に貢献します。

大和リースは子どもたちが自然を守り、ふれあう、活動の輪を応援しています。



### 大和リース株式会社

本社 大阪市中央区農人橋2丁目1番36号 ピップビル 〒540-0011  
Tel 06-6942-8011 Fax 06-6942-8051  
建設業許可番号・国土交通大臣許可(特-2)第5903号  
宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣(9)第3836号  
[www.daiwalease.co.jp](http://www.daiwalease.co.jp)



〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル Tel.03-5951-0244 Fax.03-5951-2974  
Otowa Bldg., 2-30-20 Nishiikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171-0021 Japan

2024年(令和6年)3月31日発行 ver.2

